

# しが国際協力親善大使レポート

わたなべ のぶひろ  
渡辺 延広さん

隊次：2017年度4次隊

職種：農業機械

派遣国：パプアニューギニア

## プロフィール

1957年生まれ。民間企業で農業／産業機械用エンジンの技術者として働いていましたが、定年を機に新しいことに挑戦と、JICA ボランティアに応募。経験のない農業機械、初めての南洋生活と刺激的な毎日を送っています。

## パプアニューギニア、アロタウの気候や文化

パプアニューギニア（人口約861万人）は、日本のほぼ南の赤道とオーストラリアの間にあり、面積は日本の1.25倍です。私はニューギニア本島の東端にあるミルンバイ（湾）に面したアロタウで活動しています。この湾の大きさは琵琶湖とほぼ同じ大きさなので、アロタウから望む対岸の景色は彦根から対岸を見るのとよく似ています。（写真①）

熱帯雨林気候で雨季（アロタウは4～10月）、乾季がありますが、どちらも走るように雨（スコール）が降り始め、走り去っていくのは同じです。雨季は一日中、乾季は午後と夜に次々やって来ます。大雨の時は橋の無い川が渡れなくなり、道路が通行止めになることもあります。（写真②）

また街から少し離れると道路が十分に整備されておらず、手漕ぎのカヌーや船外機付ボートが日常の交通手段としてよく使われています。毎年11月に伝統的な大形カヌーが登場するカヌー・フェスティバルがアロタウで開催されます。シンシン（民族ダンス）も披露され一見の価値があります。

## 活動や生活について

私はミルンバイ州の農業畜産局に配属され、稲作などの普及をはかり食料自給率を向上させる活動の一環とし、農業機械の操作・整備方法の改善、新しい機械導入のアドバイスをしています。

具体的には日本の援助で大形と中形の精米機が数台、他に小形の精米機が多数導入されていますが、現地では日本と違い陸稲（おかぼ）が栽培され、粳の大きさにバラツキもあり仕上り精度が良くありません。そこで操作方法を改善するため各精米機を実際に試験し、見つけた改善操作方法の要領書を作成し、農家の方が少しでも良い性能で使ってもらえるようにしています。

また畑作用小形耕耘機（写真③）も含め多くの機械が、過酷な使い方が原因で故障します。修理するにも部品がなくできませんでした。パーツリストなどの技術データを集め、部品入手ルートを探し、修理ができるようにしました。（写真④）しかし、実際は、直ぐには部品が手に入らずに、現地にある材料で仮に修理することも多々あります。

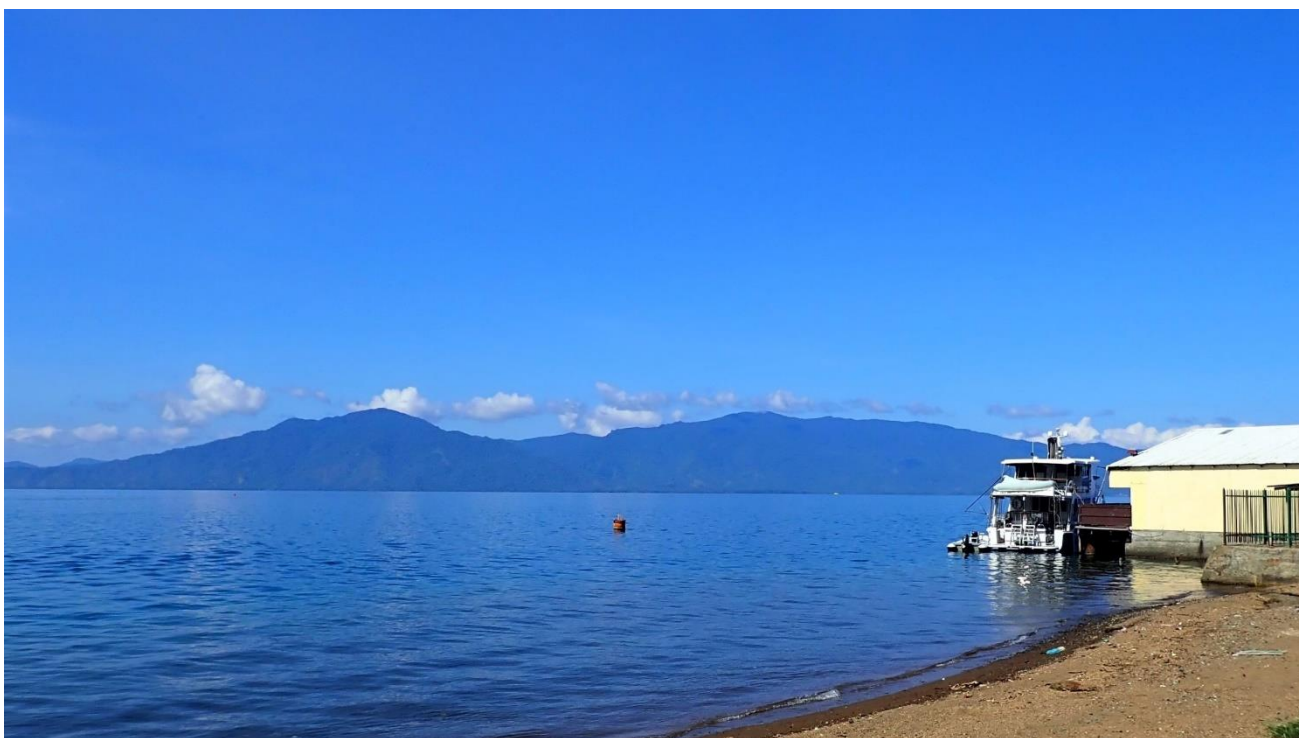
こちらでの稲作はほとんどが手作業で、重労働が嫌われているため、なかなか普及が進みません。これを解決するために、現地に合い、耐久性や部品入手性の良い機械の導入も進めました。石が多く狭い土地でも使いやすい耕耘機や、構造の簡単な脱穀機です。しかし海外への送金や輸入は大変難しく、機種決定・発注から1年半たちますが、ようやく首都の税関にたどり着いたところで、活用はこれからになります。これらの機械がパプアニューギニアで活躍するのを楽しみにしています。

この他に職業学校の生徒を中心に、エンジン技術講習会（一日コース）を9回開催しました。（写真

⑤) 農業機械や実物の部品を使い、故障診断の実習を入れるなど、実際の生活で役立つものになっています。この講習会には同任地の青年協力隊員にも手伝ってもらい、生徒達との交流も図れて良かったです。また今年から現地メカニックに講師を務めてもらい、この取組みが継続できるような体制としました。

こちらではワークライフバランスのとれた勤務（8時～4時）で、遊ぶ場所もなく早寝早起きの健康的な生活を送っています。（赤道に近いので日の出、日の入りとも、1年中ほぼ6時です。）

このように現地にあった、持続可能な活動を目指しながら、残り少なくなった任期を楽しく、有意義に過ごしていきたいと思います。皆さんも是非一度パプアニューギニアを訪問してみてください。



①アロタウの景色



②通行止めの川



③小形耕耘機



④精米機修理



⑤技術講習会